

石巻西高等学校 第3学年 地歴公民科（政治・経済）学習指導案（細案）

指導日時：令和2年 11月9日（月）第4校時  
 指導学級：第3学年 選択コ群（男子16名，女子15名）  
 指導者：宮城県石巻西高等学校 教諭 今野剛史

1 単元名 〔政治・経済〕経済活動の意義と国民経済における経済主体の役割（第一学習社『高等学校 改訂版 政治・経済』）

2 単元の目標

(1) 「経済活動の意義」については、経済活動は分業と交換に基づき人間生活の維持・向上のために行われるものであり、いずれの社会でも、「何をどれだけ」、「どのような方法で」、「誰のために」生産すべきか、生産された財やサービスをどのように社会の構成員に分配し、いかに消費するかという経済的選択の問題を解決しなければならないことを理解させる。その際に、希少性の制約の下では、個人も社会も何かを選択すると別の何かをあきらめなければならない事実に着目させ、費用と便益との比較を通して理解させる。また、経済問題の解決の方法の違いによって市場経済や計画経済などがあることを理解させる。

(2) 「国民経済における家計、企業、政府の役割」については、家計、企業、政府が現代の経済における主要な経済主体であり、これら経済主体間の相互関係が国民経済を構成していることを理解させる。さらに、これら経済主体の相互間における財・サービス、貨幣の流れは海外ともかかわっていることに気付かせる。

家計の役割については、家計は所得の制約の中で消費や貯蓄を行い、労働を企業に供給していること、消費と貯蓄が企業の生産や投資と密接に関連していること、所得の変化に伴って消費の内容や水準が変化することを理解させる。また、物価の変動など国民経済の動きや、貿易や為替など国際経済の動向も家計の行動に影響を与えることに気付かせる。企業の役割については、企業が家計や他の企業から提供された土地、労働、資本といった生産要素を結合し生産活動を行うことを理解させる。また、現代の企業の多くは株式会社の形態をとっていること、企業は、生産性を高め、法令を遵守しながら利潤を追求するばかりでなく、雇用の促進や技術の開発などを通して経済社会の進展に寄与するとともに、環境保全や文化の向上などにも貢献する社会的責任を負っていることを理解させる。政府の役割については、現代の政府は、家計や企業の経済活動にゆだねることの困難な部門を引き受けていること、資源の配分、景気変動の調整、所得や資産分配の不平等を是正するなどの役割を果たしていることを理解させる。また、政府の経済政策は、経済的な自由の保障、効率と公正の確保、成長と安定の追求などを目指して行われるが、これらの目標は相互に対立することがあり、その調整が今日大きな課題であることに気付かせる。

3 指導に当たって

(1) 単元について

学習指導要領が主なねらいとしている、「経済と国民生活とのかかわりを取り上げ、経済の基本的な概念や経済理論について学習させ、現代経済の特質について把握させるとともに、経済活動の在り方と福祉の向上との関連を考察させ、経済的な見方や考え方を身に付けさせること」において、中学校社会科公民的分野における経済学習が、生徒の身近な消費生活を中心に経済をとらえるなど、主にミクロの視点から構成されていることを踏まえ、それらを深めてゆくとともに「マクロ経済の観点を中心に扱う（内容の取扱い）とあるように、国民経済全体の視野から経済をとらえる視点を重視し、本単元では、生産、分配、消費を通じて社会全体への資源の最適な配分を実現しようとする経済活動の意義と、主な

経済主体である家計、企業、政府の経済活動とその相互関係、および経済循環の全体像を理解させる。経済主体それぞれの詳細な特質に加え、銀行を介した通貨の流れや海外との取引を含めた、経済循環という大きなダイナミズムと、そのしくみの中で果たす相互の役割・意義について、マクロ経済の基本的な見方、考え方を養い、深く広い理解を期待したい。また、企業の種類と、現代の代表的な企業形態である株式会社のしくみについて学習することで、現代の経済社会を進展させる企業の役割や諸制度に対して基本的な知識を養うとともに、その知識を活用して、企業に対して社会的に要請される役割・責任のあり方について考察することを期待したい。

(2) 生徒の実態

選択している生徒は、経済分野については、中学校社会科の公民的分野、高校1年次の「現代社会」で学習をしてきていることと、希望進路や受験時期などの状況により、各経済主体の経済活動や基礎的な経済への興味・関心の点では、日常的にニュースを見ている生徒も一定数いるなど、比較的高い。しかし、これまでの学習を振り返り考えを記入してきた「考えたことカード」の取り組みからは、以前の学習と関連させて新たな気づきを得ている生徒が約3割程度いる一方、約半数は毎回の学習で扱った知識を繰り返したものに留まっていて、学びの持続が課題だと考えられる。また、授業評価によれば、経済に対して「専門用語や抽象的なシステムの内容が多いことで難しく感じる」など、学びづらさを感じている生徒が約半数いるため、興味・関心の高さを学習の理解に導くことが課題だと考えられる。

(3) 指導について

ミクロ経済的な視点で各経済主体の行う生産、分配、消費の経済活動を解説することと、国民経済や経済循環、社会全体に資源が最適に配分された状態の全体像をマクロ経済的な視点で流れや構図を概観させることを組合せた指導を行う。株式会社のしくみについては、システムの成り立ちと、そのメリット・デメリットを関連付けて考えさせる。

また、実社会との関連を意識させて、興味・関心を理解につなげるため、ニュースや新聞記事の具体例を適宜紹介する。

「考えたことカード」や『『考え方』類型の自己評価ツール』を導入やまとめて記入させたり、ペアで共有させたりして活用し、学習内容に関連した自分の考えを言語化し、他者と考えをやり取りし、また、適宜振り返り、自己評価することを通して、理解を広げ・深めるとともに、思考力を養わせる。加えて、生徒の理解度を教師が把握し評価することで授業の改善を図るとともに、必要に応じて添削指導を行ったり、生徒全体に紹介したりしてフィードバックを行う。

4 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
・経済主体や経済活動、役割、経済循環について関心をもち、意欲的に現代の経済のしくみや社会に対する経済活動の意義について意欲的に考察しようとしている。	・企業の社会的責任について具体例を挙げ、社会的な要請と関連付けながら客観的に考察し、言語化してまとめている。	・各種資料から、経済主体の経済活動や経済循環、企業の種類・活動・社会的責任に関する資料を収集し、考察活動に役立つ情報を適切に選択し、効果的に活用している。	・経済活動の意義について、社会全体に対して資源を最適に配分する目的と、その実現方法とともに理解し、その知識を身に付けている。 ・経済主体とその経済活動、経済循環のしくみについて、それぞれの経済主体の役割を理解し、その知識を身に付けている。



			・企業の種類や、目的、経済社会に対する役割、株式の意義、株式会社のしくみ、株主の権利について理解し、その知識を身に付けている。
--	--	--	---

5 単元の指導および評価計画（全体5時間）

学習項目	時数(本時)	主なねらいに対する主な学習活動	評価の観点				学習活動における主な具体的評価規準(評価方法)
			関	思	技	知	
経済活動の意義	1	<p>「社会全体に資源が最適に配分された状態」を実現する目的やそのための方法について理解させる。</p> <p>○資料や解説を手がかりにして、生産・分配・消費の目的、効率性の追求、資源の最適配分の実現についてワークシートに書き込む。</p>			●	・生産・分配・消費のバランスがとれることで、資源が社会全体に最適に配分され、社会の効率を高めることができることについて理解し、その知識を身に付けている。(ワークシート)	
	2	<p>「市場経済と計画経済」についてメリット・デメリットを比較することを通して理解させる。</p> <p>○経済史の流れを概観する中で、資源の最適配分を実現しようとする2つの経済システムについて比較しながらワークシートに書き込む。</p>			●	・価格や取引を市場に委ねる自由競争による市場経済と、政府の計画通りに資源を配分する計画経済の共通点と違いを、両者のメリットとデメリットを比較することで理解し、その知識を身に付けている。(ワークシート)	
経済主体と経済活動	3(本時)	<p>経済循環における企業・家計・政府の経済活動とその役割、経済循環の全体像を理解させる。</p> <p>○資料や解説を手がかりにして、経済活動や三者の相互関係、経済循環の全体像についてワークシートに書き込んだり、「考えたことカード」にまとめたりする。</p>			●	・企業・家計・政府が行う生産・消費・財政活動と、それらの社会に対する役割、相互関係について、経済循環の全体像と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。(ワークシート、「考えたことカード」)	
企業の種類と活動、企業の社会的責任	4	<p>企業の種類と、株式会社のしくみ、企業の経済活動の目的、企業を取り巻く制度について、資料を読み取り、企業に対して社会的に要請される役割・責任を考察するために必要な情報を収集させる。</p> <p>○資料を活用し、企業の種</p>			●	・教科書や資料集を活用し、公企業・私	

		類、株式会社のしくみ、企業の活動の目的、企業を取り巻く諸制度について読み取り、ワークシートに整理する。			企業・公私混合企業、株式と株式会社のしくみ、企業の目的である利潤追求、近年の法制度の整備について読み取っている。(ワークシート)
	5	<p>企業に対して社会的に要請される役割とその責任のあり方について、具体例を挙げながら考察させる。</p> <p>○資料を活用し、企業が取り組む社会的責任の具体例を挙げ、その背景にある社会的な要請について考察し、ワークシートにまとめる。</p> <p>○本単元で学習してきたことを振り返り、自分の考えを「考えたことカード」に言語化して書き込む。</p>			<p>・社会的な責任を果たすための、具体的に企業が取り組んでいる活動を例示して、その活動がなぜ社会から求められているのかを客観的に考察している。(ワークシート、机間巡視)</p> <p>・経済主体の経済活動や経済循環、企業の活動や社会に対して果たす責任や役割について、さらに意欲的に追究しようとしている。(「考えたことカード」、観察)</p>

6 本時の指導

(1) 題材名 「経済主体と経済循環」

(2) 本時の中心的な活動とねらい

資料や解説を手がかりにして、経済活動や三者の相互関係、経済循環の全体像についてワークシートに書き込んだり、「考えたことカード」にまとめたりする活動を通して、経済循環における企業・家計・政府の経済活動とその役割、経済循環の全体像を理解できるようにする。

(3) 本時の評価規準

評価の観点	具体的評価規準	Aとする具体的な姿	Cへの具体的な手立て
知識・理解	・企業・家計・政府が行う生産・消費・財政活動と、それらの社会に対する役割、相互関係について、経済循環の全体像と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。	・三者の経済活動と、社会に対する役割、相互関係について、通貨の流れや海外との取引を関連付けて、広い視野から経済循環をマクロ経済的なしくみとして理解している。	・三者の経済活動や相互関係について、具体的な例を挙げて、関連を見出しやすくする。 ・生徒同士のやり取りを通して、興味・関心を持ちやすくする。

(4) 学習指導上の工夫（主に本時のねらいに対して）

- ・スライド資料を用いることで、全体像としてのしくみや相互関係、構図をつかみやすく提示する。
- ・時事問題として「新型コロナウイルス流行による経済的な影響」を例示することで、学習内容と実社会との関連を意識しやすくし、経済主体間の相互作用や経済循環の全体像をつかめるようにする。
- ・「考えたことカード」に考えを記入することで、生徒が自分の思考を振り返り言語化して表現したり、カードを交換して読み合ってお互いに比較したりして考えを広げ、深めることができるようにする。さらに、紙媒体のやり取りと、その後振り返る機会を設け、生徒間の対話的学びを促す機会とする。

(5) 準備物



- ・教科書
- ・図説資料集
- ・ワークシート
- ・スクリーン
- ・プロジェクター
- ・PC
- ・ホワイトボード
- ・「考えたことカード」
- ・「『考え方』類型の自己評価ツール」

(6) 本時の展開

段階	学習活動と主な発問 (●予想される生徒の反応)	形態	指導上の留意点	評価の観点 (評価方法)
導入 5分	1 本時の学習課題を知る。  学習課題：「経済主体の役割が経済循環にどう影響するのだろうか？」  ・前時との関連を知る。 ・既習事項を確認する。	A		
展開 32分	2 経済活動と経済循環を概観する。 ・スライド資料やワークシートの図解から、家計・企業・政府の経済主体が行う経済活動について確認する。 ・経済循環の全体像を、銀行を介した通貨の流れや海外との取引と関連させて知る。 ・事例から連想し、経済活動の相互関係と経済循環の全体像について考える。  新型コロナウイルス流行による経済的な影響を考えてみよう。 3人グループで、それぞれ家計・企業・政府の視点から分担して考え、「考えたことカード」に記入し、お互いに読み合って共有する。(ワーク3分、共有3分) (●企業の業績悪化、家計が苦しくなる、政府が国民にお金を配る、お金をつかわなくなる、海外旅行減少…などを挙げる。)	A  G	・スライド資料を用いる。  ・代表的な例を取り上げて全体に共有する。 ・考えが出づらな場合には最近のニュースを手がかりにしたり、近くの生徒に聞いたりするよう促す。	【思・判・表】 (行動観察) (「考えたことカード」への記入)
	3 経済主体と経済活動について整理する。 ・三つの経済主体が、財やサービスと通貨との取引である経済活動を通して、お互いに密接に関わり合っていることに気付く。  (1) 家計 ・家計と企業の関わりについてワークシートに記入し整理する。労働力や土地などの対価として、賃金や地代など見返りが発生することを知る。 ・消費と景気の関わりについてワークシートに記入し整理する。その中で、家計の消費活動が景気によって左右	A  A	・活動が難しい場合には、適宜ヒントを与えたり、周りの生徒と教え合うよう促したりして支援する。  ・卒業後に社会人となり、家計の一構成員として、収入を得ようとする場合の、企業との関係を意識できるようにする。	

	されやすいことを確認する。			
	(2) 企業 ・企業の目的である、生産拡大と利潤追求についてワークシートに記入し整理する。その中で、企業活動の社会的意義について気付く。 ・資金調達の種類をワークシートに記入し整理する。その中で、資金の流れとの関連について知る。 ・企業の大規模化の理由についてワークシートに記入し整理する。	A	・生産効率を追求することが、企業の果たす経済活動の意義にも関わることに気付かせる。	
	(3) 政府 ・政府が租税や国債発行によって収入を確保していることと、財政支出の目的と役割についてワークシートに記入し整理する。 ・修正資本主義の立場から、政府の財政活動の役割が持つ公共性・公益性について考えるとともに、経済的利益とは必ずしも結びつかないことに気付く。  政府の行う活動を、民間企業に完全に委ねられないのはなぜだろうか。 ワークシートに考えを記入し、ペアで読み合って共有する。 (●儲からないから、政府がやらないとうまくいかないから、民間に完全に任せると公平でなくなるかもしれないから…などを挙げる。)	A  P	・代表的な例を取り上げて全体に共有する。 ・考えが出づらな場合には、企業活動の目的と対比させて考えるよう促し、気付きを支援する。	【思・判・表】 (行動観察) (ワークシートへの記入)
	4 経済循環の全体像について確認する。	A	・スライド資料を用いる。	
まとめ 13分	5 本時のまとめ ・「考えたことカード」を記入し、共有する。 展開部と同じグループで、それぞれ分担した経済主体と同じ視点から、本時の学習を振り返り考える。(ワーク5分、共有3分) ・共有後、改めて自分の考えをカードで振り返り、自己評価する。(自己評価1分)  ・本時の学習活動の全体像を振り返り、経済循環の捉え方が、マクロ経済の基本的な見方の	G  個別  A	・カード記入中に、生徒から質問があった場合には、個別の説明や全体への補足説明などを行う。 ・改めて新たな気づきなどがあれば、色ペンを用いて書き込ませる。 ・今後取り扱っていくマクロ経済の分野につながる	【知識・理解】 (「考えたことカード」への記入)



一つであることを意識する。		見方であることを生徒が意識できるよう声掛けを行う。	
5 次時の予告 ※ 終了後、考えたことカードを提出する。	A		

※形態：A（一斉）、P（ペア）、G（グループ）、個別（個別）

(7) 板書計画

経済主体と 経済循環	(6)消費 (7)貯蓄 (8)資産	(14)社債 (15)他人 (16)規模	(22)社会資本 A(例)民間企業が行おう としないような利益 の出づらい活動でも、 政府が行わなければ ならない場合がある から。	(メモ)
(1)消費活動	(9)バブル	(17)下		
(2)労働	(10)生産	(18)租税		
(3)要素	(11)利潤	(19)国債		
(4)配当	(12)株式	(20)公共財		
(5)消費	(13)自己	(21)所得		

(8) ワークシート、プレゼンテーションソフトによるスライド資料、「考えたことカード」、「『考え方』類型の自己評価ツール」(別添)

【参考文献】

- ・高等学校学習指導要領解説 高等学校 公民編 <平成26年1月 文部科学省>
- ・「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料（高等学校）」  
<平成24年7月 国立教育政策研究所> <http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html>
- ・「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善及び必要な方策等について」  
(答申) <平成28年12月 中教審> p132-139
- ・『「学び」の構造』佐伯胖(著) 東洋館出版社
- ・『新訂 一枚ポートフォリオ評価 OPPA』堀哲夫(著) 東洋館出版社
- ・小川康輔(2019)「自分の考えを持ち、主体的に学ぶ生徒を育てる指導—生徒が自分の考えを説明し合う学習を通して—」平成31年度長期研修成果報告書
- ・金洋太(2018)「児童が主体的に問題解決に取り組む小学校理科授業を目指して—児童が行う質問づくりと一枚ポートフォリオ評価の工夫を通して—」平成30年度長期研修成果報告書
- ・おおたとしまさ「子供の学力の新観点『思考コード』を知っていますか？」  
<https://www.syutoken-mosi.co.jp/column/entry/entry000668.php>

年	事項
1917	ロシア革命
1921	ソビエト政府、新経済政策(ネップ)により、資本主義的要素を容認(〜28年)
1922	ソ連成立(初代指導者:レーニン)
1949	中国建國(初代主席:毛沢東)
1958	中国 大躍進政策を開始→経済が急降
1966	ソ連 人民公社を設立(83年解体開始)
	中国 国営企業に経済学者リーベルマングが提唱した利潤方式を導入
1978	中国 文化大革命が終る(〜77年)
1995	中国 改革開放政策を開始
1991	ソ連 ベレストロイカを開始
1993	中国 社会主義市場経済の導入を宣言
2010	中国 GDPが日本を抜いて世界第2位に

**社会主義経済の特質と変容** 資本主義経済の問題点に対する批判は、社会主義経済が成立する契機となった。その理論的な基礎を提供したのが、マルクスとエンゲルスである。社会主義経済の特質は、第一に、土地・機械・原材料などの生産手段は社会的所有となる。第二に、国家による計画経済がおこなわれる。そして、資源と労働力は国家によって計画的に配分される。

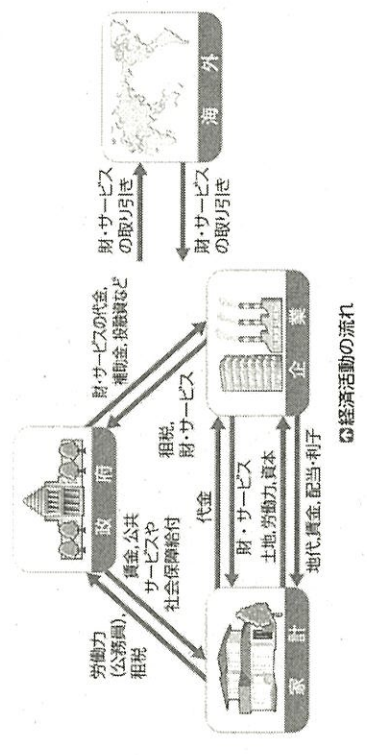
◎ソ連(ロシア)と中国の経済年表

**マルクスの経済思想** マルクスは『資本論』(1867〜94年)を著し、資本主義社会では、資本家による労働者からの搾取がおこなわれるとして、資本主義経済を批判的に分析し、社会主義経済への必然的移行を説いた。また、マルクスらは、みずからの考え方を科学的社会主義とよび、それまでのサンシモン、オーウェン、フーリエらの観念的な社会主義思想(空想的社会主義)と区別した。

ソ連や中国では、土地や重要産業が国有化されたが、1960年代から経済の停滞・混乱が深刻化した。社会主義経済が停滞したおもな理由は、私利利潤の獲得が認められないため、競争原理はたからかずに技術革新が遅れたことや、労働意欲が高まらなかったことなどがあげられる。

ソ連では、経済の活性化をめざして1980年代後半からペレストロイカ(改革)が進められた。しかし、十分な成果をあげることができなまま、ソ連は1991年に崩壊した。ソ連崩壊後のロシアは経済停滞に苦しんだが、現在では豊富な天然資源を背景に経済を発展させている。中国では、1978年から改革開放政策がとられ、経済特区の設定や株式制度の導入を図るなど、社会主義市場経済を推進している。現在では貿易の拡大と高い経済成長率を実現させ、中国のGDPは世界第2位となっている。ベトナムでも1980年代後半にドイモイ(刷新)路線が打ち出され、市場経済が導入されるようになった。

① 社会主義市場経済 共産党による社会主義政治体制の下で、計画経済を重視する経済体制のことをいう。1993年に中国の憲法に明記された。



2 経済主体と経済活動

**POINT**  
 ■ 三つの経済主体は、互いどのような役割を果たしているのだろうか。  
 ■ 株式会社のしくみや、株主の権利はどのようなものだろうか。  
 ■ 企業の社会的責任とは、どのようなものだろうか。

**三つの経済主体** 経済社会には、経済活動に参加する単位として、消費活動をおこなう家計、生産活動をおこなう企業、財政活動をおこなう政府、という三つの経済主体がある。これらの経済主体が相互に財やサービスを取り引きすることによって、経済活動が営まれている。こうした経済活動の流れを経済循環という。また、これらの経済主体は海外に対しても財やサービスの取り引きをおこなっている。

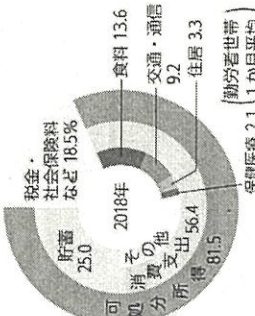
**家計の活動** 家計は、土地・労働力・資本といった生産要素を企業や政府に提供し、また、企業が生産した財・サービスを消費している。

家計は、生産要素を企業や政府に提供する対価として、賃金や配当・利子などの所得を得る。所得から政府に納める税金や社会保険料を引いたものが可処分所得となる。そして、可処分所得から消費を引いたものが貯蓄となる。貯蓄に回ったお金は、銀行への預金、民間の保険への加入、株式や社債(企業が発行する債券)の購入などを通じて、企業に資本として提供されるほか、国債の購入を通じて、政府に提供される。

また、家計は、所得の制約の下で最大限の効用(満足感)が得られるように、財・サービスを選択したり、消費量・貯蓄額を決定したりする。このため、



実収入 558,718円  
 実支出 418,907円



平均消費性向……可処分所得に対する消費支出の割合

⑤家計の収入と支出(総務省資料) グラフは実収入に占める支出の割合を示す。

財・サービスの価格や所得の大きさ、金利や配当の水準、資産価格などに応じて消費行動が変化する。

⑥企業の活動 ⑥企業は、銀行や証券会社を通じて家計から資本を調達して、この資金をもとに設備の購入(設備投資)や労働者の雇用をおこなない、財・サービスを生産する。企業はこの活動によって利潤(利益)を得る。

利潤は、企業の売上高(総収入)から人件費や設備の購入費、原材料費など、生産するための費用を引いたものである。企業は利潤の最大化を目的としており、そのために、生産量や価格、生産要素の組み合わせを調整する。

利潤は企業の所有者に対して分配される。株式会社の場合、利潤は株主に對して配当という形で分配され、残りは内部留保(社内留保)として企業の資本となる。内部留保は再び設備投資や労働者の雇用などに利用される。

⑦企業とイノベーション 企業は利潤を高めることを目標として、激しい競争を展開する。この過程で技術開発や経営改善が進めば、経済発展が実現する。シユンペーター<sup>(1883-1950)</sup>は、このような経済発展を起こす要因をイノベーションとよんだ。イノベーションは、蒸気機関や自動車の発明、I T革命といった技術革新だけではない。生産工程を改善して生産性を高めたり、新しい販売経路や市場を開拓したりすることなどもイノベーションである。

①シユンペーター オーストリアの経済学者。おもな著書に『経済発展の理論』(1912年)がある。

項目	金額 (円)
①売上原価(原料や仕入れ代金など)	1,000,000円
②販別利益(相利益)	(-)550,000円
③販別利益(相利益)	450,000円
④営業外費用(本業以外の費用)	(-)150,000円
⑤営業利益(本業での利益)	300,000円
⑥営業外収益(本業以外の収益)	(+)160,000円
⑦営業外費用(本業以外の費用)	(-)20,000円
⑧経常利益(通常の経済活動での利益)	340,000円
⑨特別利益(一時的に発生した利益)	(+)8,000円
⑩特別損失(一時的に発生した損失)	(-)6,000円
⑪当期純利益	342,000円
⑫法人税など	(-)130,000円
⑬当期経理利益	212,000円

⑬損益計算書 売上高からさまざまな費用が差し引かれ、最終的な利益が確定する。なお、製造業の場合、生産に直接携わる労働者の人件費は売上原価に含み、その他の人件費は販売及び一般管理費に含む。

公企業	国営企業	出資者	資本金
公社	地方住宅供給公社など	有限責任の株主(1人以上)	
独立行政法人	国立印刷局・酒税局など	無限責任社員と有限責任社員(各1人以上)	最低資本金の規定なし
地方公営企業	上下水道・交通事業など	無限責任社員(1人以上)	
公庫	日本政策金融公庫など	無限責任社員(1人以上)	
公営企業	NTT・JT・日本銀行など	無限責任社員(1人以上)	
個人企業	個人商店・農家など	無限責任社員(1人以上)	
法人企業	株式会社など	無限責任社員(1人以上)	
組合企業	農業協同組合(農協)など	無限責任社員(1人以上)	

⑭企業の種類 公企業や公営企業にも、株式会社形態をとる企業がある。また、公私合同企業の中には第三セクターとよばれるものもある。

⑮政府の活動 ⑮政府は、家計や企業から租税や公債、社会保険料などの形で資金を調達し、公共事業による社会資本(インフラストラクチャー)の整備や、警察・消防・教育などのサービス、社会保障給付などの財政活動をおこなっている。また、政府は、財政政策を通じて景気の調整や経済的格差の是正などをおこなうことによって、国民生活の安定と向上を図っている。

⑯企業の種類 企業には、国や地方公共団体が出資し、経営する公企業と、民間人が営利のために出資し、経営する私企業、および、政府と民間の共同出資による公私合同企業がある。公企業には、国営企業、公社、独立行政法人などがあるが、近年では廃止や民営化が進んでいる。

⑰現在の日本における会社企業形態には、株式会社、有限会社、合資会社、合名会社、合同会社がある。合資会社や合名会社、合同会社は、資金調達の範囲に限られるが、株式会社は株式を発行することによって、不特定多数の人々から資金を調達できる。この場合の資金の提供者(出資者)である株主が社員であり、会社の負債に対する社員の責任は出資額を限度とする有限責任である。

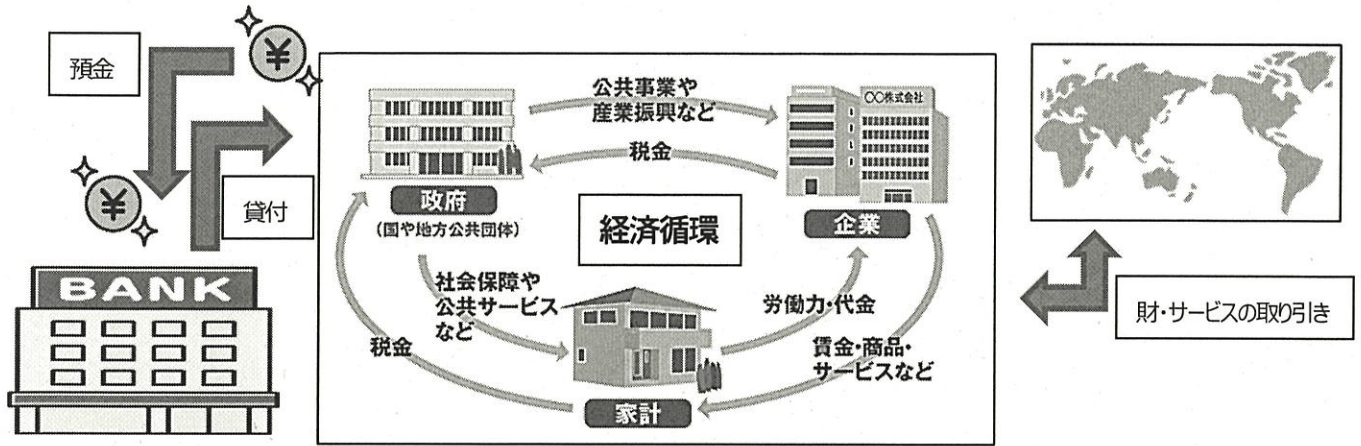
- ⑱社会資本 経済の発展と生活水準の向上に必要な設備であり、道路・港湾・工業用水などの生産関連社会資本と、住宅・上下水道・公園・文教施設などの生活関連社会資本がある。
- ⑲社員 会社法上、社員とは従業員のことではなく、株式会社、有限会社、合資会社、合名会社、合同会社における出資者のことである。
- ⑳有限責任 会社の負債に対して、出資額をこえて支払う義務がないこと。会社が倒産したとき、株主は購入した株式の価値を失うだけですむ。一方、無限責任社員は、会社の負債に対して無限の責任を負うため、出資額をこえて自分の財産を弁済にあてる必要がある。



3) 経済主体と経済活動 (整理)

(1) 三つの経済主体 (経済活動を行う主体)

↓↓資本は循環している!!



1. 家計: 「1 ( )」の中心

- ・企業に 2 ( ) 力を提供し、見返りに賃金などの収入を得て、支出を行う。
- ・資本や土地を生産 3 ( ) として企業に提供し、見返りに 4 ( ) や地代を得る
- ・日常生活に必要な支出 = 「5 ( ) 支出」 例 食料費, 衣服費, 住居費, 教育費
  - ※ 「6 ( ) 性向」…消費に回す割合 (景気によって変わる)
- ※ 「7 ( )」 = 「所得」 - 「消費支出」 例 貯蓄・銀行預金, 生命保険料などにあてられる
- ※ 「8 ( ) 効果」…保有する土地や株式の価格が上がると、消費が増える
  - 例 1980年代の日本…「9 ( ) 経済」

2. 企業: 「10 ( )」の中心

- ・労働力・資本・土地を用いて生産活動を行う
- ※ 「11 ( )」 = 「売り上げ」 - 「費用」 企業は利潤の最大化を狙う
  - ※ 「費用」の例 原材料費, 人件費, 利子の支払い, 減価償却費
- ※ 資金調達の方法
 

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 12 ( ) を発行する</li> <li>・ 利潤から次の投資等に回す (= 「内部留保」)</li> </ul>	➡	13 ( ) 資本
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 銀行から融資を受ける</li> <li>・ 14 ( ) を発行する</li> </ul>	➡	15 ( ) 資本
- ・ 企業間の合併・買収 (M&A) … 「16 ( ) の利益 (スケール・メリット)」や経営の多角化を狙う
  - ※ 大規模に生産すれば、1 単位あたりの生産費用が 17 ( ) がる

3. 政府: 「財政」の中心, 家計と企業の調整

※家計・企業のどちらもできないことを行う!!

- ・ 収入… 家計や企業に対して 18 ( ) を課したり, 19 ( ) を発行したりして資金調達
- ・ 支出
  - ① 20 ( ) 財の提供 (資源の配分) 例 国防・警察, 道路・上下水道など
  - ② 社会保障 (21 ( ) の再分配) 例 生活保護の支給, 年金, 医療費など
  - ③ 公共事業 (22 ( ) の整備) 例 道路整備, 災害復旧費など

※Q. 政府は、民営化などで財政支出を整理・圧縮しようとしている。

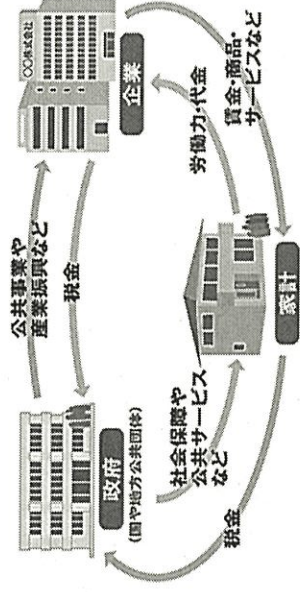
しかし、政府の行う活動は、民間企業に、完全に任せることはできない。なぜだろうか??

A. \_\_\_\_\_

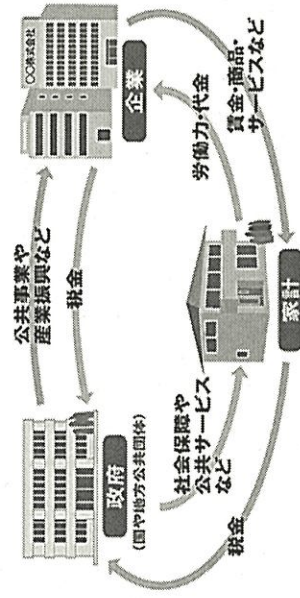
# 経済主体と経済活動 ～経済循環システム～

- ・三つの経済主体とは？
- ・経済が「まわる」？

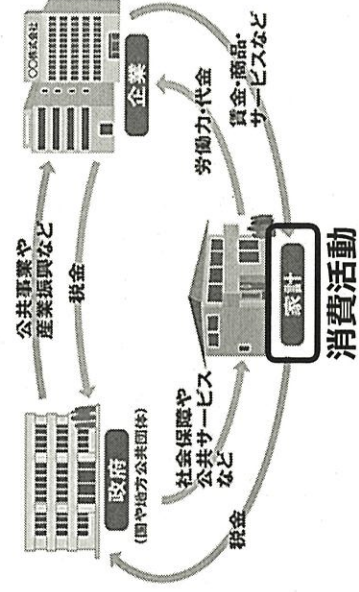
## 三つの経済主体と経済活動



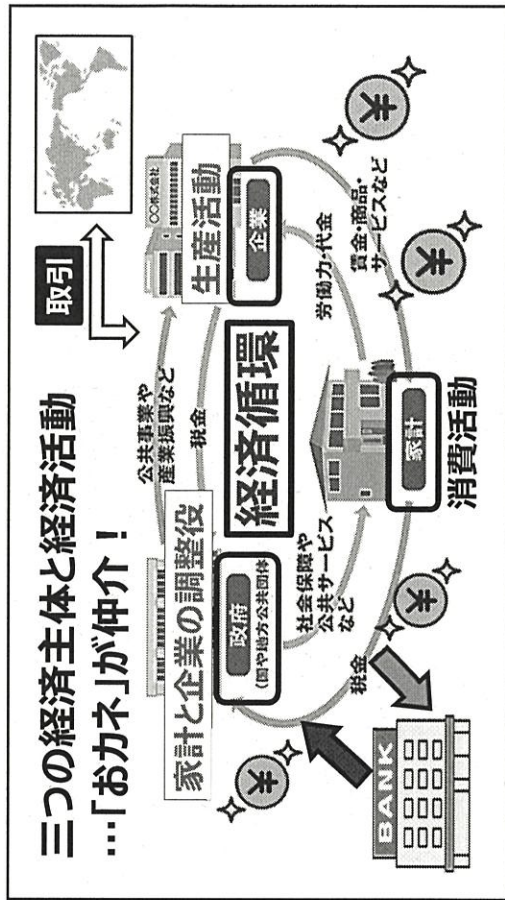
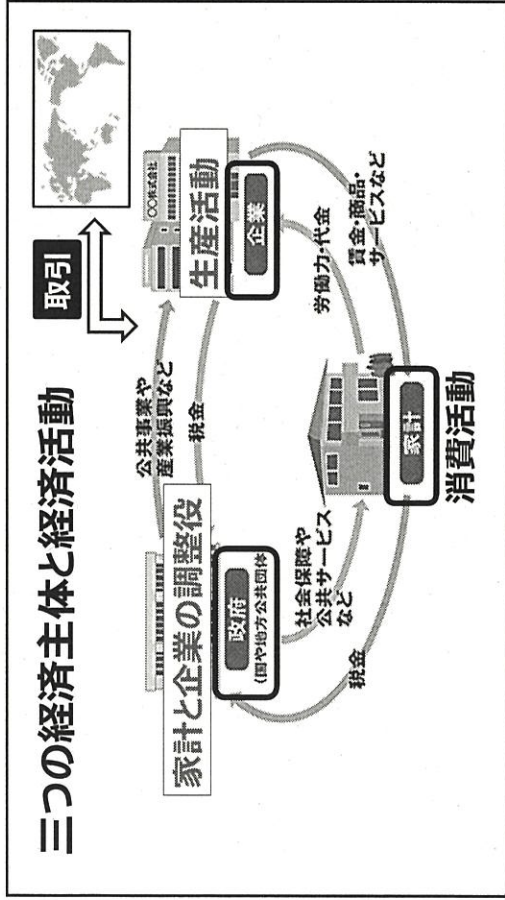
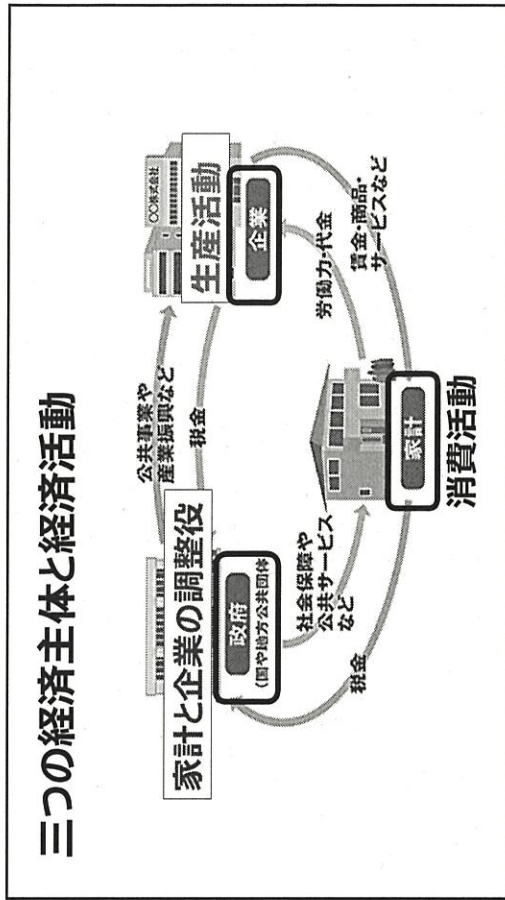
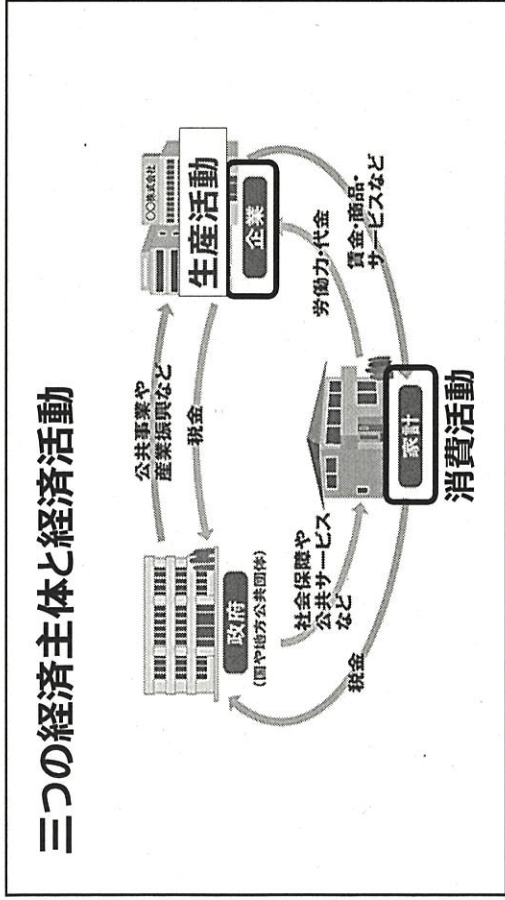
## 三つの経済主体と経済活動



## 三つの経済主体と経済活動

















## 「考えたこと」って、どんな…？

自分がどんな「考え方」をしているのか？

他にどんな「考え方」ができそうか？

「考える内容」に加え、「考え方」を意識して、トレーニングすると効果的！

下の分類と3×3の表を参考にしてみよう！

「考えたことカード」に、その「考え方」がA1～C3のどれにあたるか、書いて可視化！

### 代表的な分類

#### ○種類

A. 知識・理解(分かったこと)

B. ロジカルシンキング(論理的に整理・組み立て)

C. ひらめき・飛躍・アナロジー思考(他のものに応用)

#### ○段階

※1<2<3…と、優劣関係があるわけではないですよ。どれもとても大事。

1. シンプル

2. 複雑・組合せ

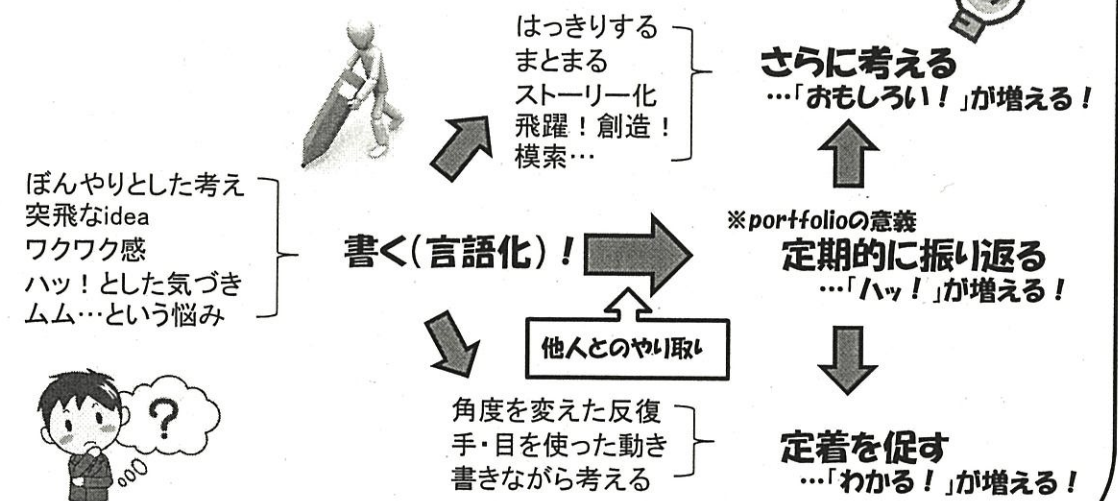
3. 変容・全体関係

### ※「考えたこと」自己評価のためのツール

3	変容 全体関係	今日の授業で分かった、大きなこと	これまでに学んだのと論理的につながった、大きなこと	ひょっとして、他のに応用できそうな、大きなこと
		今日の授業で分かった、ちょっと複雑なこと	これまでに学んだのと論理的につながった、ちょっと複雑なこと	ひょっとして、他のに応用できそうな、ちょっと複雑なこと
1	シンプル	今日の授業で分かった、シンプルなこと	これまでに学んだのと論理的につながった、シンプルなこと	ひょっとして、他のに応用できそうな、シンプルなこと
?	知識・理解	ロジカルシンキング	ロジカルシンキング	ひらめき・飛躍 アナロジー思考
		A	B	C

※ あくまでも例です。

### 「考えを書き出す」ことの魔力:magical power





前提	これまでに、中学生までの「考える内容」と、ひと通りの「考え方」は経験してきている(はず)
実態の見立て	(1)興味・関心が薄い (2)興味・関心はあるが、考え方の幅が狭い (3)考えの内容が浅く、自己完結するのが早い
仮定	考える経験を積み重ね、鍛えることで、考える内容や考え方の幅がレベルアップしていくのではないか
手立て	(1)考える内容と考え方を意識してトレーニングする (2)自分で考えを振り返ること(Reflection)と、教師と対話すること(Dialog)によって、思考の持続性を促す
ツール	(1)「考えたことカード(ポートフォリオ&教師との交換タイプ)」 (2)「考え方」類型の自己評価ツール
評価の手立て	(1)ポートフォリオによって、考えたことの内容と考え方の幅の変化を見取る(生徒による自己評価) (2)授業評価アンケートによって、考えたことがどのoutputレベルか、状況を振り返る(生徒による自己評価)

「考えたことカード(ポートフォリオ&教師との交換タイプ)」と、  
参考資料

「考え方を類型化する目安となる自己評価ツール」によって進められる好循環モデル

